

保育所等訪問支援

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	柏崎市早期療育事業元気館		
○保護者評価実施期間	令和7（2025）年10月1日 ～ 令和7（2025）年10月31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2人	(回答者数) 2人
○従業者評価実施期間	令和7（2025）年10月1日 ～ 令和7（2025）年10月31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2人	(回答者数) 2人
○訪問先施設評価実施期間	令和7（2025）年10月1日 ～ 令和7（2025）年10月31日		
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	2園	(回答数) 2園
○事業者向け自己評価表作成日	令和8（2026）年1月15日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問先の園の対象児以外のお子さんについても連携を行うことができた。	・他の子も含めたクラス運営について助言することで、本人及び他のお子さんの成長を促す。 ・本人のニーズに合わせた活動場面に訪問することで必要なアドバイスをを行う。	今後も本人のニーズに合わせた訪問、本人だけでなくクラス全体の成長支援に取り組む。
2	保護者に対して園の先生から伝えにくい発達のことについて支援員から伝えることができた。	支援員との信頼関係を構築した上で、お子さんの特性や関わり方について伝えている。	保護者や就園先との信頼関係を構築できるよう努めていく。
3	心理士が支援員として訪問することで、発達特性などの見立てを行い支援することができた。	支援員を心理士が担うことで発達の見立てを行い、特性に応じた支援方法を就園先に伝えている。	今後もお子さんに必要な支援が行われるよう適切なアドバイスを行う。
3	保護者・園・支援員が参加し情報を共有する機会を設けたことで、共通理解のもとお子さんの支援ができた。	支援者が連携して支援できるよう共通理解を図る。	今後も保護者・園・支援員が情報共有する場を設けることで、同じ方向性をもってお子さんの支援ができるよう努めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	就園先の先生への関わり方のアドバイスが中心なため、間接的な援助になってしまう。	保育所等訪問支援の目的や支援方法について訪問先へのレクチャーが不足している。	就園先への事業の目的の説明や具体的な支援方法を伝えるよう心掛け、実践してみようと思えるよう伝える。
2	就学先との連携が不十分である。	今まで年長児の利用がほぼなかったため、就学先との連携の必要性がなかった。	必要に応じて就学先への引継ぎができる体制を図る。